

テーマ9 オーガニック給食の必要性（10件）

9-1 【羽後町 40代】

現在の物価高から給食は大きな課題になっている。単価が高い中、限られた予算で調達するため、「きのこ」の割合が特に献立表からも増えている。栄養面も含め、もう少し自治体からの予算を増やし、保護者負担は増やさないほうがよい。給食の写真などをHPに掲載し、保護者にその日の子どもたちの給食をタイムリーに開示することで、保護者も献立表からは伝わらない部分を理解しやすいのではないかと。それにより、オーガニックにも関心が徐々に広がっていくと思われる。

9-2 【秋田県（市町村不明） 30代】

オーガニックの前に、地元の普通の農家を助ける仕組みを作ったほうがいいんじゃないでしょうか。オーガニックは割高で生産数も少ない。そこにお金をかける事が秋田県の農業のためとは思えません。

9-3 【秋田市 30代】

給食は食材高騰で品数削減リスクがあり、他の自治体でもニュースになっている。オーガニック給食は供給難、コスト増で不必要。有機野菜は総合学習・家庭科、農業クラブ・購買などで食育をする。どうしても給食でやりたいなら私立学校で給食費を追加で支払ってオーガニック給食を導入が限度では。コスト抑制と栄養維持を優先すべき。

9-4 【秋田市 40代】

ネット上では、オーガニック給食になってから子どもがお腹がすいたと毎日繰り返していて、実際の量が激減していた、という投稿を見たことがあります。農家としては公的な相手に売り上げを確保できることは安心できるのかもしれませんが、国内でのオーガニック給食の量を調査した上で、現状より減らないのであれば検討も出来るのではないのでしょうか。

また、オーガニック給食になれば給食費も上がると思います。その負担はどこが受け持つのでしょうか。

9-5 【大仙市 50代】

オーガニック給食が秋田を元気にする！

近年、私たちの食卓は便利になった反面、多くの課題を抱えています。その一つが、慣行農業における農薬の使用です。農薬は、病害虫から作物を守るために不可欠なものとして使用されてきましたが、その一方で、私たちの人体や、土壌、水、さらには蜜蜂などの昆虫や多様な生物にも影響を与えていることが指摘されています。

また、日本の農業は今、大きな転換期を迎えています。化学肥料や農薬の多くを海外からの輸入に頼っている現状は、世界情勢が不安定になった場合、農業そのものが立ち行かなくなるリスクをはらんでいます。このままでは、日本の食の安全保障は危ういと言わざるを得ません。

この状況を打開する鍵こそが、オーガニック給食です。オーガニック給食は、ただ単に安全な食材を子どもたちに提供するだけでなく、地域全体を元気にする起爆剤となる可能性を秘めているのです。

まず、オーガニック給食を導入することは、地域の農業を大きく変えるきっかけになります。「みどりの食料システム戦略」を掲げ、「オーガニックビレッジ宣言」をすることで、地域全体で有機農業を推進する機運が高まります。慣行栽培から有機栽培への移行は、農家にとって大きな挑戦ですが、給食という安定した需要があることで、安心して一歩を踏み出すことができます。

さらに、オーガニック給食が地域の農家を支える仕組みは、新規就農者にとっても大きな魅力となります。有機農業は手間がかかりますが、地域が一体となって支える体制があれば、若い世代が安心して農業に挑戦できます。これにより、高齢化が進む田舎に新たな活力が生まれます。

子どもたちにとっては、オーガニック給食は単なる食事以上の意味を持ちます。有機野菜を食べることで、食の安全に対する意識が育まれるだけでなく、生産者である地域の農家さんの顔が見えることで、食への感謝の気持ちや、郷土への愛着が深まります。

オーガニック給食を軸に、地域全体で有機農業に取り組むことは、健康的で持続可能な社会の実現につながります。未来を担う子どもたちの健康を守り、地域の農業を活性化させ、美しい田園風景を守ること。オーガニック給食は、そのすべて

を実現します。オーガニック給食の実現に向けて、関係各所連携をとりながら一歩ずつ前に進めていきましょう。

9-6 【秋田市 60代】

学校や幼稚園・保育園などの給食に地元産の有機農産物を使う「オーガニック給食」を導入する動きが全国に広がっています。それは子どもたちの発達障害やアレルギーの増加、経済的貧困によってまともな食事を与えられない家庭の増加など、子どもの健全な育成を脅かす課題が増えているためです。

また、農林水産省が推進している「みどりの食料システム戦略」において、有機農業の面積を全農地の25%に拡大するという目標を実現するためにも、オーガニック給食が有効なツール（手段）になるという認識も広がっています。実際、オーガニック給食を支援する農水省の事業「オーガニックビレッジ」を宣言している市町村は、全国で124に上っています（秋田県は大潟村のみ）。

秋田県内にも、オーガニック給食を推進する市民運動が始まっていますが、秋田県がオーガニック給食および有機農業を推進する政策を強力に推進することは、健全な子どもの育成および有機農業の推進の観点から、大きな必要性のある政策だと考えます。県議会議員の先生方のご検討をお願いいたします。

9-7 【大仙市 40代】

子ども時代から育む、食による心身の健康意識の定着を図るため、オーガニック給食の必要性を感じる。食を通して生涯健康、健康寿命を伸ばす地域を目指すには、子ども時代に培う味覚と食べている物が大事になってくる。義務教育の中で一律にオーガニックに触れられる機会があることは、秋田で生まれ育つ醍醐味と成り得る。農薬のほとんどを輸入に頼っている日本、無農薬でも野菜などを育てられる技術は、未来型インフラの構築にも成り得る。自然災害や世界情勢の悪化に備え、地産地消は大事。食を中心につながり助け合う地域づくりをすることは、農村地である秋田県にとって必要不可欠で強みにも成り得る。自らの手で食物を育て作り食べる経験は、故郷を想う気持ちを育める。子供時代に健康的に美味しく楽しく味わう食育を、オーガニック給食に求める。以上のことを考え、大仙市ではオーガニック学校給食が進むように活動している。

9-8 【にかほ市 50代】

いち早い、みどり戦略に向けた農業県秋田の取り組み

すでに、日本各県、市町村でオーガニックビレッジ宣言のもと、有機農業とオーガニック給食の普及がどんどん始まっており、秋田はすでに何歩も遅れていると感じています。せっかくの米どころ秋田、自然豊かな秋田、水がおいしい食べ物おいしい秋田と謳っていながらも、自然環境を汚すような作り方からの脱却を、県として推進してもらいたいと思います。オーガニックの必要性を問うというような足踏みをしているのは何故でしょうか？

また、実際にオーガニック農業を普及するためには、これから新規就農する人や切り替えをする人、比較的若い農家さんに取り組んでもらえるような戦略的な農事業推進も必要かと思います。県事業にみられるような圃場整備のような大規模農場よりも、小規模に新規で始める若手農家さんがオーガニック農家として自律成長できるような環境と支援を行うような農政策が必要かと思いました。

いずれにしても、オーガニック給食の必要性と有機栽培農家を増やすことの両輪で、米どころ秋田、食の秋田を刷新してほしいと願います。

9-9 【にかほ市 40代】

オーガニック給食推進の意義と多面的効果

子どもの健全な成長に不可欠な食の安全性向上

日本小児科学会などの報告によれば、農薬など化学物質の影響で子どもの健康リスクが増大しています。オーガニック食材は農薬残留のリスクを大幅に減らし、安心安全な食環境を提供します。実際に欧州の調査では、有機食品摂取群でアレルギー発症率が20~30%低減したとの報告もあります。

- ・ 発達障害やアトピー増加への改善効果

厚生労働省の調査によると、発達障害児は年々増加傾向にあり、現在は小学生の約7%が何らかの発達障害を抱えています。オーガニック食材は農薬・添加物の摂取を減らすことができ、症状の軽減や発症予防に寄与する可能性が示唆されています。

- ・ 環境保全と持続可能な農業への貢献

秋田県は農業県として、国の「緑の食料システム戦略」に沿った環境負荷低減が求められています。オーガニック農業は農薬・化学肥料の使用を抑え、生態系への負荷軽減に寄与し、土壌や水質の保全にもつながります。また、この国の戦略を積極的に活用し、県民の豊かな暮らしの実現につなげることは、行政の重要な責務であると考えます。

- ・ 新規就農者の増加と農業の担い手不足対策

農林水産省の統計では、近年、有機農業に挑戦する新規就農者が増加傾向にあります。オーガニック給食推進は若い農業者の意欲向上につながり、地域農業の活性化・担い手確保に貢献します。

- ・ 地方移住促進の効果的なPR

総務省の調査で、移住希望者の約6割が「子育て環境の充実」を重要視しており、安心安全な食環境の提供は大きな魅力となります。オーガニック給食を推進することは、子育て世帯の地方移住を促進する有効な手段です。

- ・ 地域の農薬使用削減による県民全体の健康増進

農薬による健康被害は子どもだけでなく全県民に関わる問題です。農薬使用軽減により、地域住民の発がん率やアレルギー疾患の減少が期待され、医療費削減にもつながります。

- ・ 地域ブランド力向上と住民の幸福度向上

安心安全な食材を供給する生産地としてのブランド化は、地域経済の活性化や住民の誇り・幸福度向上に寄与します。オーガニック給食推進は地域の持続可能な発展に貢献する施策です。秋田県が国の「みどりの食料システム戦略」を最大限に活用し、県民の健康と豊かな暮らしを守るためにも、オーガニック給食の推進は行政の重要な使命であると強く申し上げます。

9-10 【北秋田市 40代】

オーガニック給食の導入には賛成です。是非実現していただきたいと思います。